

Y8-07

NSTと褥瘡チームの連携の現状と課題

武蔵野赤十字病院 NST

^{すずき}鈴木 ^{あやこ}綾子、齋藤 恭子、安藤 亮一

【目的】平成22年度、NSTリンクナースの活動目標に他職種との連携を挙げ、褥瘡チームとの連携に着目した。その背景には、褥瘡保有の患者のほとんどは、低栄養状態にあるが、NSTの介入があまりなされていないのではないかという実態がリンクナースからの指摘があった。双方のチームは独立した活動をする中で、医師を中心に専門看護師や管理栄養士、NSTに至っては臨床薬剤師や臨床検査技師も積極的に回診へ参加しチーム医療を展開している。双方の連携を強化し、より患者中心の医療の向上に努める為に、現状を把握し、具体的に連携の強化に向けて取り組み始めたので報告する。

【方法】平成22年9月～12月までに褥瘡チームが回診した患者のNST活用状況の調査を実施した。

【結果】褥瘡チームが介入した褥瘡保有者は19名であった。NPUAP分類で1・2、3・4群の2グループに分けた。1・2群は10人中8人に低栄養が見られ、内1名にNST介入があった。3・4群は9名中7名に低栄養が見られていたが、NSTの介入はなかった。

【考察・結語】褥瘡保有者にNSTの介入がほとんどなかった原因として、褥瘡チームにも管理栄養士が参加しており、栄養の問題は解決できている。また、病棟スタッフは疾患に基づく低栄養や、経腸栄養時の下痢についてはNST依頼してくるが、褥瘡保有者は褥瘡チームの介入によって、対象としていないことが考えられる。NST対象者については、明文化し開設当初より提示しているが、病棟格差が生じてしまっている。これらの問題をふまえ、定例合同カンファレンスを開始した。ケースを通し、双方の介入の状況や役割を確認する機会になっている。今後は、この合同カンファレンスの参加職種の拡大を図り定着させることと、NST専従看護師が中心となり、ケースを通して褥瘡保有者へのNST介入の理解を得ることが課題と考える。

Y8-08

当院の多職種医療チーム合同カンファレンスの現状と課題

武蔵野赤十字病院 看護部

^{ひるま}比留間真子、^{まさこ}安藤 亮一、梅田 整、
西 三代子、齋藤 恭子、佐久間ひろ子、
岩田 薫、黒木 智恵

【目的】当院では、2010年11月より医療チームの専門性を発揮して患者に質の高い治療やケアを提供すること、医療知識の研鑽を目的に多職種医療チーム合同カンファレンスを開始している。多職種医療チーム合同カンファレンスにおける連携やカンファレンスの現状及び今後の課題について報告する。

【方法】開始から、現在までの多職種合同カンファレンスの現状の参加状況や職種およびカンファレンスの内容を比較し今後の課題を明確にする。

【結果】第2回目以降のカンファレンスからは、医療チームだけではなく患者に最も近い主治医、病棟看護師や患者を取り巻く多職種の参加形式で行った。その結果、専門チームの連携を図ることだけではなくそれぞれの方向性を理解できると共に情報共有の場となった。

【考察及び結論】専門チームだけではなく、患者に関わる多くの職種が一堂に会してカンファレンスを行うことは、医療者にとって有効なものであり患者にとってもより質の高い治療やケアの提供につながると思われる。しかし、現在は多職種医療チーム合同カンファレンスの周知がされていない現状がある。院内において多職種医療チーム合同カンファレンスの周知徹底がされるように活動して行くことが必要である。また今後は、システムの構築・組織化に向けて多くの専門チームや職種が連携していくことが課題である。